

社会福祉法人青葉会「放課後等デイサービス事業所」の支援プログラム

2024年11月1日作成

<p>事業所</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジュニアペガサス（放課後等デイサービス、児童発達支援） 2. 第2ジュニアペガサス（放課後等デイサービス、児童発達支援） 3. 自閉症サポートセンター ペガサス（放課後等デイサービス、児童発達支援） 4. 第2ペガサス（放課後等デイサービス）
<p>法人理念 (ミッション)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アスペルガーの方から強度行動障がい者等、重篤な障がいのある方まで、全ての利用者のライフステージを通じて、地域生活を保障し、尊厳と権利を擁護した活動を推進。 ○ 利用者に対して、ご家族と共同して、本人主体の支援を推進。 ○ グループホームの利用者に対して、家庭生活を提供し、ご家族が暮らす街で生涯にわたる支援を提供。 ○ 利用者のご家族を支え、家族に支えられる事業運営を推進。 ○ 情報の公開、外部評価の導入により、開かれた事業運営を推進。 ○ 地域と密着した活動を通じてまちづくりに貢献。 ○ 働く職員のやりがいを支え、法人一丸となって常にチャレンジングな姿勢で新たな社会福祉を切り拓く。
<p>支援方針</p>	<p>青葉会の自閉症サポートセンター ペガサス、第2ペガサス、ジュニアペガサス、第2ジュニアペガサスの4事業所は、「すべての子どもは社会の宝です」、「一人ひとりが人として十分に尊重され、個々の特性に応じた配慮がなされなくてはなりません」及び「子どもの育ちの基礎となるのは家族であり家族を含めたトータルな支援を行います」の三つのミッションのもと、次のコンセプトで、本人への5領域（「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」）、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携を全て含めた総合的な支援に、「行ってみたい」「ワクワクする」「ゆっくり過ごしたい」ような遊びや体験、安心した居場所の提供を通じて取り組んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 異年齢の子どもたちが職員と一緒に多様な遊びや活動を通じて、楽しさ、不思議さ、面白さを経験する。 ② 子どもたちが、事業所の活動を通して基本的な生活習慣や社会のルールなど生活上のルールを身につける。 ③ 子どもたちが、人や遊具、自然と関わりながら、社会性や、感受性、基本的な運動能力を身につける。 <p>青葉会の4つの事業所は、互いに連携を図り、青葉会内の基幹相談支援センターの「地域生活相談センター シャル」、地域障がい児支援体制中核拠点の「児童発達支援センターリトルペガサス」とがっちり連携するとともに、作業所、短期入所、ヘルパー事業所等も含めた青葉会の総合力で支援を提供します。</p>
<p>職員の質の向上</p>	<p>青葉会では、採用した人材はミッションの推進役として頼られる人材となるよう、様々な研修や現場での実践を通じて育成に努めるとともに、努力を惜しまず取り組む職員、頑張っている職員を適正に評価し、積極的に支援しています。</p> <p>職員に求める力は、①心身の健康 ②向上心 ③責任感 ④共感性 ⑤ユーモア ⑥</p>

	<p>常識的なセンス ⑥後輩の指導を含めたチームワーク ⑦イノベーションであり、自分の得意な分野、不得手な分野を承知し、日々の努力につなげていく力だと考えます。</p> <p>人材育成では、現場で利用者に関わり、ご家族を支援し、後輩を指導し、かつ地域の中に入っていただくため、資質向上に必要な様々な研修や、現場・地域での実践を通じて職員の育成に努めるとともに、法人内外の交流にも活躍できる人材の育成に努めています。</p> <p>新規採用者には、各種の研修に加えて、一年間の実務研修を受講してもらっています。</p>
--	--

青葉会の4つの事業所は、子どもたちの状況や地域性等に弾力的に対応するため、共通したミッションとコンセプトを前提に、事業所ごとのカラーを出した次のような取組みを行っています。

(1) ジュニアペガサス (小学生、定員 10 名)

本人支援	健康・生活	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズムや生活習慣の形成 ○ 障がいの特性の理解と生活環境の調整 ○ 生活におけるマネジメントスキルの獲得 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な室内・戸外遊びの楽しい活動を企画し、経験をする機会を作る。 ・ 一人ひとりに応じた食事、休息、過ごし方等を見極め、本人らしく安心して過ごせる場を提供する。 ・ 食事、排泄、衣服の着脱などの身の回りのことは自分でできる様、見守りや声掛けをする。 ・ 子どもたちの「やってみたい！」の気持ちを受け止めチャレンジできる環境を整える。
	運動・感覚	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活等に必要の基本動作の獲得 ○ 保有する感覚の活用 ○ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を通して、日常生活に必要な基本動作（食事、排泄、着替えなど）を身につける。 ・ ボール遊びやトランポリン、すべり台などで身体を動かしたり、レゴやプラレール、ピアノなどで手先を使った遊びを通して様々な感覚を身につける。 ・ 調理や音楽、工作などの日々の活動から自然に五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）の力を育む。
	認知・行動	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感覚や認知の特性についての理解と対応 ○ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 ○ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

		<p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュールボードやイラスト等、子どもたちそれぞれにあった伝え方を工夫し、自分から行動するきっかけを作っていく。 ・ 子どもたち自身が見通しを持てるようにし、次の楽しみに向けて主体的に過ごせるよう環境を整えていく。
	<p>言語・コミュニケーション</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○ 言語の受容と表出 ○ 状況に応じたコミュニケーション <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味関心を引く遊びや活動から、友達や大人と関わり、自分の気持ちを伝える・相手の気持ちを知るなどたくさんのコミュニケーションの機会を作る。 ・ 家庭や学校とは違う第3の場として、安心して過ごせる居場所作りや新たな交流機会を増やしていく。 ・ 子どもたちそれぞれにあった意思疎通の方法を考え、コミュニケーションの楽しさを知る。
	<p>人間関係・社会性</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の意図や感情の理解 ○ 仲間づくりと集団への参加 ○ 情緒の安定 ○ 安定したアタッチメントの支援 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や大人と関わり場面に応じた行動を知っていく。 ・ 子どもたちの好きな過ごし方を見極めながら少しずつ他児との交流を深めていく中で気の合う友だち作りのきっかけを作る。 ・ 様々な経験を通して、気づきや関心を得る。 ・ 子どもたちが主体となり活動を企画し、考え、話し合い、行動に移せるよう大人は一緒に考えながらファシリテーターとして寄り添っていく。 ・ 不登校児に対しては子ども本人の気持ちに寄り添い、共感し子どもの自己肯定感を高めていく事を大切にする。 ・ 仲の良い友達や信頼できる大人と関わりながらたくさんの「できた!」の経験の場と「楽しかった!」「またジュニアペガサスに行きたい!」と思える安心して過ごせる場を作る。
	<p>家族支援</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人を中心とした子育て支援の連携 ○ 安心した生活を送るための第3の場の確立 ○ 家庭や学校以外の専門的な相談先 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面や連絡帳、SNS、保護者会や個別面談を通して、日々の子どもの様子を共有する。 ・ 家庭や学校と連携しながら、保護者の皆様が安心して送り出してくれる場所、子どもが安心して過ごせる場を作る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の皆様の困り感に耳を傾け寄り添っていく。また、必要であれば適切な機関へ速やかに繋いでいく。 ・ 公開事例検討会等のグループワークを開催し、ご家族が気軽に交流・相談できる機会を作る。
地域支援・地域連携	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たなコミュニティーの場の獲得 ○ 環境の調整と連携 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の公共施設等を活用しながら、新たな体験をし、経験を積み、また様々な友達や大人との交流の機会を増やしていく。 ・ 地域の催し物（お祭りなど）に参加させていただき地域との連携や交流を深めていく。 ・ 関係機関と連携しながら、本人に必要な支援を検討していく。
移行支援	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢に応じたスムーズな移行支援 ○ 支援の継続 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問や電話、書面連絡などニーズに合わせて、適切な引継ぎを行っていく。 ・ 宿泊体験などの活動を企画する事で、学校での宿泊学習の不安を少しでも取り除いたり、急な短期入所利用等にも備えていく。 ・ 進学・就学の際には、必要に応じて適切な情報共有や引継ぎを行い、積極的な連携を図る。

(2) 第2ジュニアペガサス（小学生、定員 10 名）

本人支援	健康・生活	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズムや生活習慣の形成 ○ 障がいの特性の理解と生活環境の調整 ○ 生活におけるマネジメントスキルの獲得 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもらしく元気に遊びまわられる環境を整え、様々な遊びや体験などの楽しい活動をたくさん企画し、積極的に外出する機会を作る。 ・ 友達や信頼できる大人と一緒に身の回りのことが自分で行えるよう、物の配置や部屋の配置を工夫し、自信や意欲へと繋げる。 ・ よく遊び、よく食べ、よく休むなど、遊びの場を通して子どもらしく過ごし、規則正しい生活リズムを身につけられるよう支援する。 ・ 自分でできたの経験を増やすため、子どもにわかりやすい環境を整える。
	運動・感覚	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活等に必要な基本動作の獲得 ○ 保有する感覚の活用 ○ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 <p>【支援内容】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な活動を通して日常生活に必要な基本動作（食事、排泄、着替えなど）を身につける。 ・ 広い室内や、屋外スペースを活かして、季節に応じた活動（例えば、プールなど）を行うとともに、玩具（ボールやレゴ、プラレールなど）や、かくれんぼや鬼ごっこなどで遊び、様々な感覚を身につける。 ・ 音楽や工作などの活動から見て、知って、聞いてなど、必要なスキルを身につける。
	<p>認知・行動</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感覚や認知の特性についての理解と対応 ○ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 ○ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちそれぞれにあった伝え方として写真や絵カード、文字や時計などを使って、子どもたちが自主的に行動できるように支援する。 ・ 子どもたちが自分で考える力を養いながら、それぞれがたくさんの遊びや楽しみを見つけていけるようにする。
	<p>言語・コミュニケーション</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○ 言語の受容と表出 ○ 状況に応じたコミュニケーション <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校に通学する児童の遊び場として、言葉でのコミュニケーションを大切にし、興味関心を引く遊びや活動から、友達や大人との関わり、たくさんのコミュニケーションの機会を作る。 ・ 「一緒に遊ぼう」「貸して」「ありがとう」など自分の気持ちを伝える、友達の気持ちを聞く、受け止めるなどの経験を積めるようにし、子どもそれぞれにあった意思疎通の方法を考え、コミュニケーションの楽しさを知る。
	<p>人間関係・社会性</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の意図や感情の理解 ○ 仲間づくりと集団への参加 ○ 情緒の安定 ○ 安定したアタッチメントの支援 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に地域に出る活動を提供する。近隣の公園への外出、公共交通機関を使っての外出、地域の商業施設やコンビニなどへの外出など、様々な活動を友達と経験し、場にあった適切なルールやマナーを学ぶ。 ・ 集団のできる遊びや活動に参加し、安心して過ごせる場所や仲間づくりのきっかけを作る。
	<p>家族支援</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人を中心とした子育て支援の連携 ○ 安心した生活を送るための第3の場の確立 ○ 家庭や学校以外の専門的な相談先

	<p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族と支援者が同じ視点を持って、一緒に歩いていくこと、家族との意思疎通を大切にしながら支援する。 ・ 送迎時や連絡帳、SNS (LINE 等)、及び、保護者会や個別面談を通して、子どもたちの明るく楽しいエピソードをふんだんにお伝えする。 ・ いつでも相談をお受けし、必要であれば適切な機関へ速やかに繋いでいく。
地域支援・地域連携	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たなコミュニティーの場の獲得 ○ 環境の調整と連携 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣へ新年の挨拶に出かけたり、地域の催しやイベントなどにも積極的に参加し、地域交流する機会を作る。 ・ 関係機関と連携しながら、本人に必要な支援を検討していく。
移行支援	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢に応じたスムーズな移行支援 ○ 支援の継続 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問や電話、書面連絡などニーズに合わせて、適切な引継ぎを行っていく。 ・ 進学・就学の際には、必要に応じて適切な情報共有や引継ぎを行い、積極的な連携を図る。また、子どもの卒業後には施設ボランティアとしての受け入れを検討し、長い目で子どもの支援を行う。 ・ 子どもたちや家族の不安感、悩みに寄り添い、適宜面談を行う。

(3) 自閉症サポートセンター ペガサス (小学生～高校生、定員 10 名)

本人支援	健康・生活	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズムや生活習慣の形成 ○ 健康状態の維持・改善 ○ 基本の生活スキルの獲得 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れた大人や友達と一緒に色々な体験ができる機会を作っていく。 ・ 睡眠・食事・排泄等の基本的な生活リズムを身につけられるよう寄り添う。 ・ 身のまわりのこと(食事・衣類の着脱・排泄等)は、過ごしの中で一つひとつ声を掛け意識していき、自分でできるところは見守っていく。 ・ 健康的な生活の基本となる「食」を意識し、調理活動やおやつ作りの経験を通し、楽しく食事ができるように繋げていく。 ・ 様々な遊びや体験などの楽しい活動をたくさん企画し、経験を増やすため、子どもたちにわかりやすい環境を整える。 ・ 子どもたちの小さなサインを見逃さず、心身の変化に気付いていく。
	運動・感覚	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活等に必要な基本動作の獲得 ○ 保有する感覚の活用

	<p>○ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動</p> <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れた大人や友達と一緒に色々な体験ができる機会を作っていく。 ・ 運動遊びを通じて日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や体の使い方・動かし方を意識して寄り添う。 ・ 視覚・聴覚・触覚などの感覚を細やかに把握し環境調整を行っていき十分に遊べるよう配慮する。
<p>認知・行動</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感覚や認知の特性についての理解と対応 ○ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 ○ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちそれぞれに添った伝え方を工夫し、「やった～!」「できた!」の成功体験へ繋ぐきっかけを作っていく。 ・ 子どもたち自身が見通しを持てるように視覚・聴覚・触覚的な伝え方を配慮していきわかりやすい環境を作っていく。
<p>言語・コミュニケーション</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○ 言語の受容と表出 ○ コミュニケーション手段の選択と活用 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れた大人や友達と一緒に色々な体験ができる機会を作っていく。 ・ 家庭や学校と異なる、第3の場として、新たな交流機会を増やしていく。 ・ 子どもそれぞれの意思疎通の方法（指差し・身振り・サイン・言葉）を見逃さないように応じていく。
<p>人間関係・社会性</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他者との関わり(人間関係)の形成 ○ 自己の理解と行動の調整 ○ 仲間づくりと集団への参加 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れた大人や友達と一緒に色々な体験ができる機会を作っていく。 ・ 本人の「やった!」「できた!」の瞬間を見逃さないよう「いいよ」「上手だね」等と声を掛けていき、沢山褒めることで自信や意欲へと繋げていく。 ・ はじめての活動では見本を見せる。 ・ 大人が仲立ちとなり、「おやつだよ～!って呼んできて」等と声掛けをし、他児との交流場面を作っていく。 ・ 大人が仲立ちとなり、「僕、今跳んでるよ!待っててね」等と本人の代弁をしたり、「〇〇ちゃん上手だね、待っててねって言っているね」等と相手の気持ちを代弁して伝えていく。 ・ 不登校の子どもには、本人の気持ちに寄り添い、共感することで、子どもの自己肯定感を高めることを大切にする。家庭・学校・相談支援事業所との連携を図る際に、事業所での支援の状況や子ども本人の変化等を共有する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期の子どもには、子どもが自己肯定感を高められるよう支援を行う。子どもの意思を受け止めて、一人ひとりの悩みや葛藤、個性に寄り添っていく。また、心の不調や病気の兆し、症状やその特徴を理解して寄り添う。小さなサインから心身の異変に気付けるよう寄り添っていく。
家族支援		<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人を中心とした子育て支援の連携 ○ 安心した生活を送るための第3の場の確立 ○ 家庭や学校以外の専門的な相談先 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎時や連絡帳を通じて日々の活動の様子を報告する。 ・ 保護者会を開催していく。 ・ 前期・後期の間に一度、またはご要望に合わせて面談を行う。電話やLINEでの面談も実施する。 ・ 公開事例検討会や勉強会などを開催し、保護者同士の交流や就労等の将来の事など話せる場・聞ける場を積極的に作っていく。
地域支援・地域連携		<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たなコミュニティーの場の獲得 ○ 環境の調整と連携 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物体験では近隣のコンビニ店などで、チャレンジングな経験を積み、成功体験へと繋げていく。 ・ 外出活動を通して、公共のマナーや交通ルールを伝える。 ・ 関係機関と連携しながら、本人に必要な支援を検討していく。
移行支援		<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢に応じた支援 ○ 支援の連携・共有・継続 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援事業所や他事業所、学校と連携を図り、本人の状況や支援内容等の情報を共有していく。 ・ 職場体験や宿泊体験などの活動を企画し、様々な場面での経験をしていく。 ・ 特に高校生には、土曜日の活動やお仕事体験を通じ就労を意識して活動していく。また、学校卒業後の生活を見据えて、ご家庭と相談しながら放課後等デイサービスにおける活動を組み立てていく。

(4) 第2 ペガサス (小学生～高校生、定員 10 名)

本人支援	健康・生活	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康状態の維持・改善 ○ 生活リズムや生活習慣の形成 ○ 障がいの特性の理解と生活環境の調整 ○ 生活におけるマネジメントスキルの獲得 <p>【支援内容】</p>
------	-------	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の把握をし、本人の意思表示や小さなサインを見逃さないようにきめ細かな観察をする。 ・成長段階に合わせた睡眠、食事、排泄などの生活リズムが身につけられるよう支援する。 ・身の回りのことが自分でできるよう、一人ひとりに合わせわかりやすい方法で支援をする。 ・一日の流れや活動内容がわかりやすいように、視覚的手段などを用いて安心して活動に参加できるようにする。 ・子どもの「やってみたい！」の気持ちに応え、「できた！」の経験ができるように環境を整え支援する。
	運動・感覚	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活等に必要の基本動作の獲得 ○保有する感覚の活用 ○感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動を通して食事、排泄、着替え等の日常生活の基本動作を身につける。 ・第2ペガサスの広いテラスや地域の公園での運動遊び、室内の玩具や創作活動・調理活動など手指を使った活動を通し、様々な感覚を身につける。 ・聴覚や触覚、味覚や嗅覚等、それぞれの感覚特性に対して配慮した環境を整え、安心して過ごせるようにする。
	認知・行動	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感覚や認知の特性についての理解と対応 ○認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 ○対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動の中で約束やルールを理解できるよう、発達段階に合わせた伝え方の配慮をする。 ・数える、比べる、計る、色や形を見分けるなど、遊びや活動の中で数量や時間など、概念の形成を促す支援をする。 ・感覚過敏やこだわりからのパニックに対し、行動を分析し、適切な行動の習得ができるように支援する。
	言語・コミュニケーション	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○言語の受容と表出 ○状況に応じたコミュニケーション <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関わりの中で言葉以外に仕草、表情、まなざしなど子どもの「伝えたい」を見逃さずに受け止める。 ・コミュニケーションの手段として言葉以外に絵や写真のカード、文字などを活用し、伝える方法を習得できるようにする。 ・遊びを通して友達や大人とのコミュニケーションを楽しむ。

	人間関係・社会性	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他者との関りの形成 ○ 他者の意図や感情の理解 ○ 仲間づくりと集団への参加 ○ 情緒の安定 ○ 安定したアタッチメントの支援 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな遊びや過ごしの中で、大人から寄り添い信頼できる関係作りをする。 ・ 大人が仲立ちとなり遊びや活動を通して仲間遊びができるきっかけを作る。 ・ 仲間遊びを通してルールや順番を守る、適切な距離など、人と協調する経験ができるようにする。 ・ 思春期の子どもなど気持ちが不安定な時には大人が寄り添い、気持ちや感情をコントロールして穏やかに安心して気持ちで過ごせるよう、環境を整えたり適切な関りを持つ。
	家族支援	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人を中心とした子育て支援の連携 ○ 安心した生活を送るための第3の場の確立 ○ 家庭や学校以外の専門的な相談先 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面や連絡帳、SNS、保護者会や個別面談を通して、日々の子どもの様子を共有する。 ・ 家庭や学校と連携しながら、家族が安心して預けられる場、子どもが安心して通う場を作る。 ・ 本人、保護者、兄弟の困り感に耳を傾け、個別面談以外でもいつでも相談をお受けし、必要であれば適切な機関へ速やかに繋いでいく。 ・ 公開事例検討会等のグループワークを実施し、ご家族が気軽に交流・相談できる機会を作る。
	地域支援・地域連携	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たなコミュニティーの場の獲得 ○ 環境の調整と連携 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園で地域の子どもと交流して遊ぶ、コンビニなどでお買い物を通して地域の大人と関わりを持つなど、地域の資源を活用して開かれた社会生活の経験を積む。 ・ 関係機関と連携しながら、本人に必要な支援を検討していく。
	移行支援	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢に応じたスムーズな移行支援 ○ 支援の継続 <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問や電話、書面連絡などニーズに合わせて、適切な引継ぎを行っていく。 ・ 職場体験や宿泊体験などの活動を企画し、スムーズな移行を目指していく。 ・ 進学・就労の際には、必要に応じて適切な情報共有や引継ぎを行い、積極的な連携を図る。